

《モスクワ・アラカルト56》

海老名 ラグビーロシア代表を市をあげて応援！

日向寺 康雄

11月17日、海老名運動公園で催された市民祭りの枠内でERS(えびなラグビーサポーター)の解団式があった。我が故郷海老名はW杯ラグビー日本大会ロシア代表の公認キャンプ地となった事から、いつも前向きで実行力に富んだ内野市長を先頭にまずロシアチームへの全面サポートを決定、5月には準備段階から積極的に関わってきた倉橋市議会議長自ら応援団長を務めるERSを結成(メンバーは予想を超える約400名)、オールエビナでの「おもてなし」を誓った。

6月には市内13の小学校で2日間、給食でボルシチとピロシキが振る舞われ、7月には在日ロシア大使館のアダモヴィチ二等書記官が市役所で「現代ロシアと日口関係」をテーマに流暢な日本語で小学生も含め100人近い市民を前に講演した(ソ連時代から地元で友好運動を進めてこられた草分け的存在である平岡元市議、協会からは服部副会長も出席)。また海老名駅にはロシア選手の大きな写真と共にカウントダウンボードも設けられ、ERSはメンバー全員にロシアのチームカラーである赤のポロシャツを用意、市内ではW杯に向けた雰囲気否が応にも高まった。

W杯は9月20日、奇しくも日本対ロシアで幕が切って降ろされたが、海老名では駅間芝生公園に大スクリーンを設置、多くの市民がパブリックビューイングで観戦した。開幕戦を前に市長は、スポーツ報知のインタビューの中で「ロシアには是非とも一勝してもらいたい。複雑なのは日本との初戦。大型ビジョンを前にどっちの旗を振るかという問題があるが、海老名がキャンプ地である以上ロシアを応援するしかないでしょう」とユーモアたっぷりに語り「海老名市は海外の姉妹都市が一つも



ない。議会などの御理解も必要だが、W杯をきっかけにロシアからのアプローチがあれば前向きに検討したい」と述べている。

続いて28日にはキャンプ地となっている運動公園で、ロシア選手との交流会が催された。当初チームからは数人が参加予定との事だったが、そこは日本の

「常識」では予測不可能なロシアのこと、何とほぼ全員がバスで海老名にやってきた。おかげで地元の少年ラグビーチームや市民との交流は楽しく賑やかに盛り上がったが、市担当者の裏の苦労はいかばかりであったろう。

私は通訳ボランティアをさせて頂いたが、歓迎挨拶の中で市長は「人口13万強の海老名市に、今ロシア人は一人しかいない。この交流を契機に、たくさんのロシア人がこの町に来てくれるようになると嬉しい」と述べた。ロシア側も、子供達がロシア国歌を歌い笑顔で迎えてくれた温かい歓迎ぶり、どこの試合場に比べても引けを取らない素晴らしい芝生を整備して下さった関係者の方々等に心からの感謝を伝えた。

なお10月9日のロシア対スコットランド戦には、海老名からERSのメンバーがバス6台を仕立てて静岡まで応援に向かった。正直、今回ロシアチームの成績は残念なものだったが、海老名に撒かれた友好の種を、私はロシアとこの町をこよなく愛する者として今後も大切に守り育ててゆきたいと思っている。写真は海老名市提供。(元モスクワ放送チーフアナ、現中央大学・早稲田大学非常勤講師)